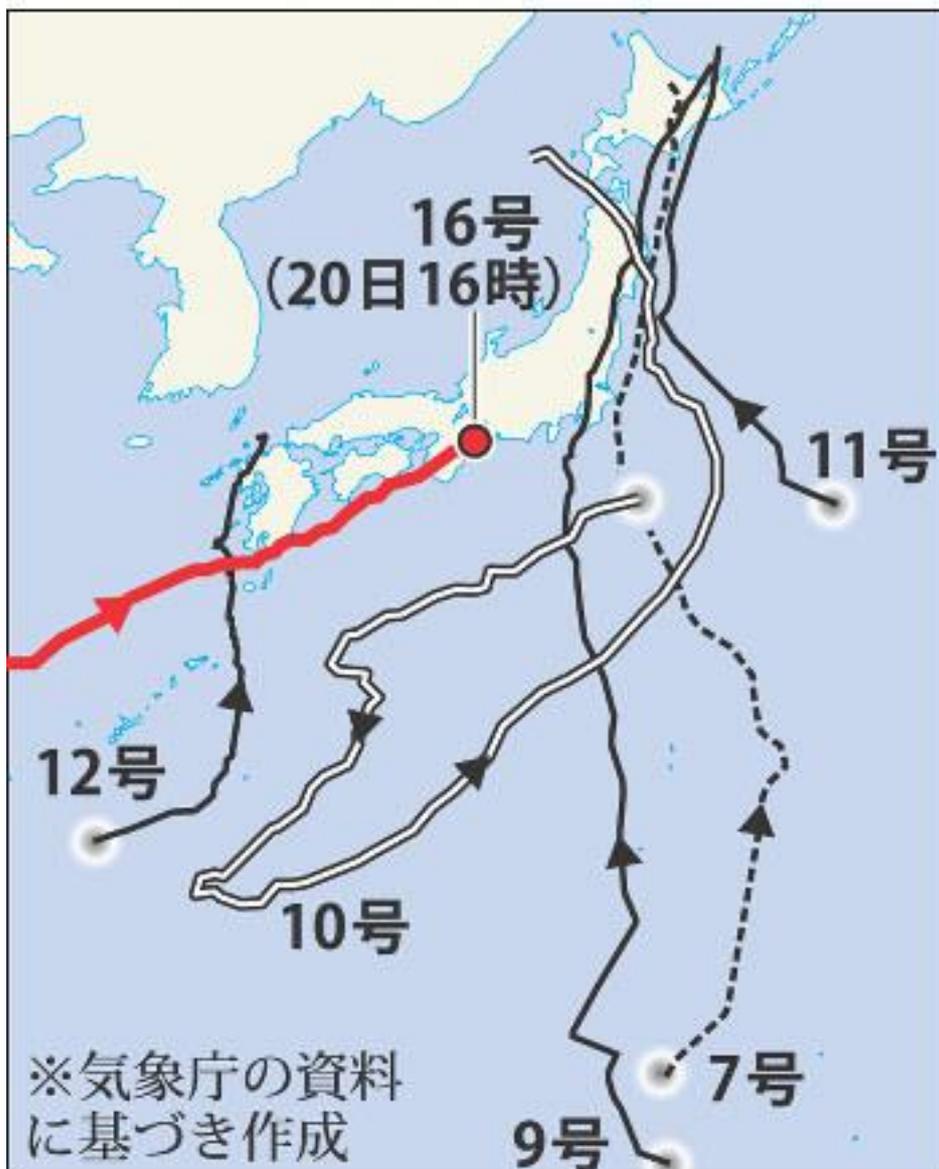


なぜ多い？ 今年6個上陸 高気圧停滞、海面水温上昇

毎日新聞 2016年9月21日 東京朝刊

[English version](#)

日本に上陸した台風の経路



台風16号は今年6個目の上陸となった。2004年の10個に次ぎ、1951年の観測開始から2位タイだ。1号の発生が7月3日と史上2番目に遅かったり、初めて東北地方から上陸したりするなど今年の台風は「異例づくめ」。何が影響しているのか。

専門家が指摘するのが、偏西風の蛇行に伴って発生する「ブロッキング高気圧」の影響だ。通常、台風は西から東に移動するが、今年は日本の東側にこの高気圧が停滞したため、行く手を遮られた台風が北上し、北海道や東北への上陸につながった。木本昌秀・東京大教授（気象学）は「珍しい高気圧ではないが、長期間続いたため異常なケースを引き起こした」と分析する。

海面水温の上昇を指摘する専門家もいる。坪木和久・名古屋大教授（気象学）によると、8月は日本の南西海域で海面水温が30度を超え、平年より2度高かった。海面水温が高いとエネルギーを蓄え台風になりやすい。また、日本の南に「モンスーン渦」と呼ばれる台風の「種」を生む低気圧も発達していたため、坪木教授は「台風になりやすい状況がそろった」と話す。

【酒造唯】

ニュースサイトで読む:

<http://mainichi.jp/articles/20160921/ddm/041/040/170000c#csidx0230a2628f59ce191b9ec80a25b6a61>

Copyright 毎日新聞